

青島大学での留学生活 Part 2

1. はじめに

青島にきて早くも2か月が経過した。本レポートでは日常生活のうちで必要不可欠な公共交通機関と、私がおすすめる青島の観光スポットについて紹介する。

2. 公共交通機関

私が普段利用する3つの公共交通機関について説明する。

まず、バスについて紹介する。バスはどこまで行っても1円で乗ることができる。しかし少し他よりも乗車料金が高いバスも存在する。中国のバスは日本のように時刻表等は存在しないが、基本的には遅くともバス停で10分程度待てば乗ることができる。支払いは基本アプリかバスカードで行う。私は普段バスカードで支払っている。バスカードを使うと、0.80元(約13円)になり、より安く乗ることができる。バスカードは様々な種類があり、キャラクターものから景色を描いたものまで様々である。ストラップの形になっているものは30元、カードは20元で購入できる。このカードはチャージ式で、大学内でもチャージをすることができる。



写真1 バス車内の様子



写真2 地下鉄のチケット

次に、地下鉄について紹介する。地下鉄は日本と全体的にあまり変わらず、また衛生的である。乗車する際は乗車券を購入するかバスカードで乗ることができ、こちらも料金は2元からと非常に安い。日本の地下鉄との大きな違いは乗車する前に空港で行われるような荷物検査があることだ。最初に見たときは驚いたが、安全のためには必要だと感じる。地下鉄もバスと同様にあまり待ち時間はなく、とても便利である。

最後に、タクシーについて紹介する。日本ではタクシーはほかの交通機関に比べて料金が割高であるイメージが強いが、中国のタクシーは非常にコストパフォーマンスが良い。そのた

め最近ではこの3つの中で最も頻繁に利用している。黒いタクシーは乗り心地が良く、水も無料でサービスされるが、他のタクシーより少し値段が高いため注意が必要となる。タクシーは走行中のタクシーを呼び止めて乗るか、アプリを使って呼んで乗る。私は、普段はアプリを使って呼んでいる。アプリを使うと、タクシーの運転手から電話がかかってくるのがほとんどだが、話すスピードが速く、また青島のなまりもあるため、まだ少ししか聞き取ることができない。ここがタクシーを呼ぶ上で最も困難なことだ。タクシーの運転手はおしゃべりな人が多く、会話の練習になるので実践的な練習になるだろう。

「滴滴出行」というアプリを普段使用しており、このアプリは非常に便利で現在地から行先までを入力して確定ボタンを押すだけで、タクシーを呼ぶことができる。基本的に5分以内で乗車することができる。支払いは微信・支付宝もしくはアプリ内で済まされることもある。

3. 観光地

私が青島に来て訪れた場所を紹介する。

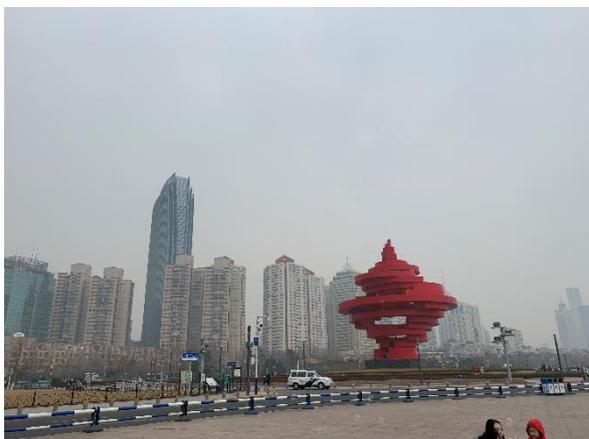


写真3 五四広場

「中国 青島」と検索してヒットすることが多いのが、この五四広場だ。ここで最も有名なのが「5月の風」と呼ばれる彫塑である。五四広場は2008年に開催された北京オリンピックのヨットレースの競技場になっていたため、五輪のマークもある。観光客も多く、ちょっとしたお土産屋さんもある。夜になると夜景がとても綺麗でランニングをするにはおすすめの場所だ。大学からも近い観光地で、地下鉄もしくはバスで行くことができる。



写真4 青島ビール博物館

次に、青島ビール博物館について紹介する。ここでは青島ビールが製造される経過を見学し、出来立てのビールを飲むことができる。原料から機械まで様々なものを見ることができ、また青島ビールの歴史をさかのぼることができる。私が行ったときはリニューアル工事中で入ることができなかったが、未成年やお酒を飲まない人でもお酒を飲んで酔っぱらったような体験ができる部屋もあるという。大学生は25元(約410円)で入場でき、おいしいビールが飲むことができるため、お酒好きにはもってこいの場所だ。

最後に紹介するのは小魚山公園である。ここは狭い道を車で通った先にあった。ここからは青島で最も有

有名な景色の1つを見ることができる。もともとドイツの植民地だったことによるヨーロッパのような街並みと海岸を一望することができる。公園自体は小規模だが、壁画や展望台があり、10円で入場することができるので青島に来た際には一度は訪れてほしい場所である。

4. おわりに

私は、公共交通機関を使いこなせるようになって、行動範囲が一層広がった。これは中国を様々な視点から



写真5 小魚山公園からの景色

から経験するためにはとてもよいことだと考える。しかし、行動範囲が広まるとともに、勉強以外に使う時間が多くなってきたのも事実である。中国での生活が日常になりつつある今、ここで、もう一度初心に戻って勉強に励んでいきたい。